

中型いか釣り漁業緊急支援事業

清藤真樹¹

目 的

北西太平洋海域における冬期アカイカ漁場の形成要因と生物特性を把握し、漁場探索の効率化等により経費節減を図り、震災で多大な影響を受けた中型いか釣り漁業の支援、経営改善につなげる。

材料と方法

1. 第一次調査

(1) 期 間：平成26年10月7日から10月18日

(2) 調査海域：三陸沖合から道東沖合海域

(3) 操業回数：12回

(4) 調査項目：seabird社製CTD・911plusによる表層から最深500mまでの水温測定。

：2連式14台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類の種類別全尾数計数、及び最大100個体の外套長測定。

2. 第二次調査

(1) 期 間：平成26年11月8日から11月19日

(2) 調査海域：三陸沖合から道東沖合海域

(3) 操業回数：13回

(4) 調査項目：seabird社製CTD・911plusによる表層から最深500mまでの水温測定。

：2連式14台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類の種類別全尾数計数、及び最大100個体の外套長測定。

結 果

1. 第一次調査

水温は、0mが12.7～19.6℃、50mが6.4～20.0℃、100mが3.6～19.4℃であった。

アカイカは12地点中10地点で漁獲があり、有漁率83%であった。1操業当たりの漁獲尾数は0～302尾、外套長の範囲は19～40cmであった。CPUEは0.0～1.8尾/台/時であった（図1、2）。

2. 第二次調査

水温は、0mが9.4～16.6℃、50mが9.4～15.9℃、100mが3.1～14.9℃であった。

アカイカは13地点中8地点で漁獲があり、有漁率62%であった。1操業当たりの漁獲尾数は0～140尾、外套長の範囲は26～46cm、CPUEは0.0～0.8尾/台/時であった（図3、4）。

¹青森県農林水産部水産局水産振興課

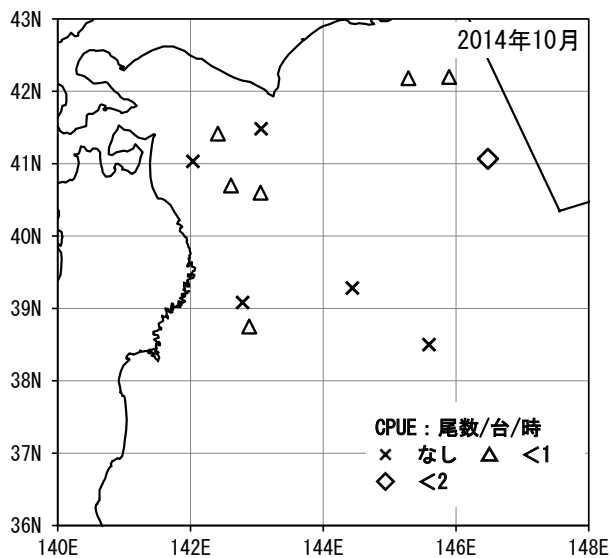


図1. 第1次調査・操業位置及びCPUE

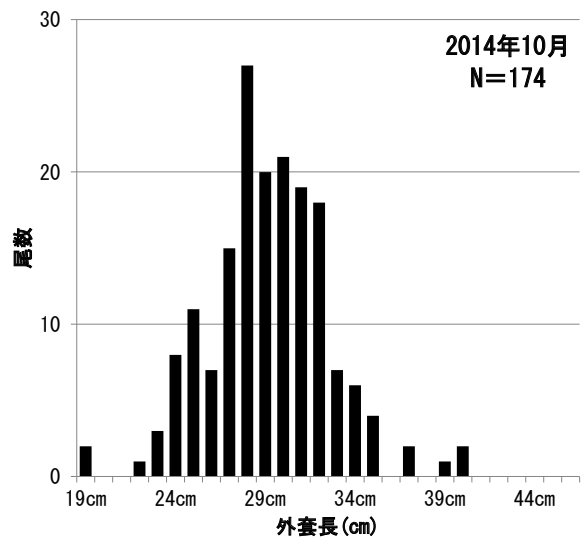


図2. 第1次調査における外套長組成

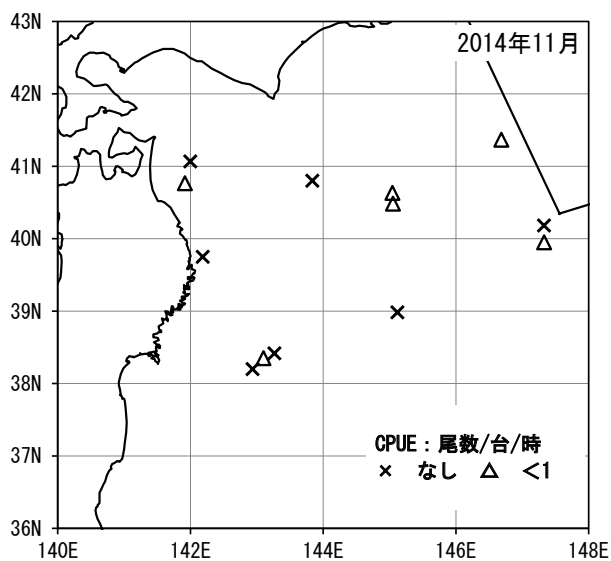


図3. 第2次調査・操業位置及びCPUE

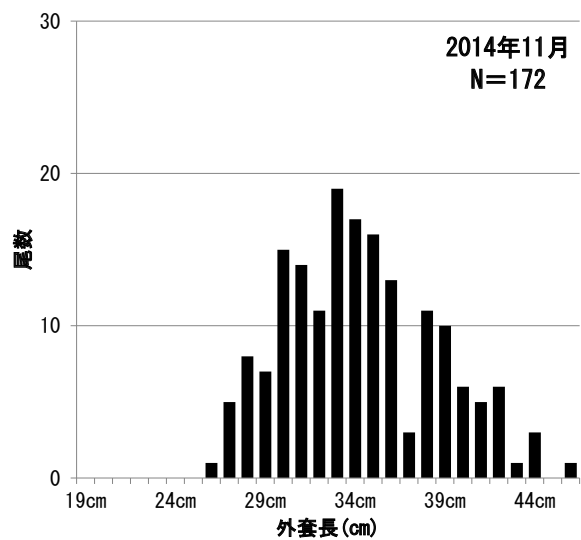


図4. 第2次調査における外套長組成

考察

2012年11月の調査では有漁率が91%、CPUEが0.0~21.9尾/台/時であったが、冬漁の水揚げは皆無であった。これに対し、2013年11月の調査では有漁率が83%、CPUEが0.0~25.5尾/台/時と、前年とほぼ同程度であったが、水揚量は3年ぶりにまとまったものとなった。これらと比較すると本年の調査結果は、11月としては、低調なものであった。